

令和5年度 全国学力・学習状況調査の結果等について

小学6年生と中学3年生を対象としたみだしの調査が、4月18日に実施されました。現在、各学校で調査結果の分析・検証を進めており、今後、自校の課題を踏まえた指導の改善に一層取り組んでいくところです。

つきましては、多治見市全体の傾向をお知らせしますので、お子さんの学習習慣や生活習慣を見つめ直す際の参考として活用いただきますようお願いいたします。

1 学力調査の結果より

調査を行った教科全て「国語、数学、英語」の平均正答率について、「国語、英語」に関しては、国・県の値をやや上回っています。「数学」は国・県と同等です。

また、各調査結果から今後付けたい力として、以下のことを挙げるすることができます。

【国語】情報と情報との関係について理解したり、文章から根拠を明確にして自分の考えを書いたりできるようにすること。

【数学】データから傾向を的確に捉え、判断の根拠を数学的な表現を用いて説明したり、ある事柄が成り立つことを証明したりすることができるようにすること。

【英語】日常的な話題について、必要な情報を読み取ったり、読んだことについて、考えとその理由を書いたりすることができるようにすること。

ご家庭では、学校から配付される個人票を参考に、正答数（率）だけでなく、誤答の自己分析から課題を見つけましょう。今後努力することを、お子さん自身が自己決定できるようなふり返りとなるようお声がけをお願いします。

2 質問紙調査の結果より

質問紙調査において主なものをまとめると、以下のようなことがいえます。

<学習習慣>

・1日の家庭における学習時間(月～金)2時間以上が約40%で国・県を上回っています。休日になると、約45%と割合は増えますが、県を下回っています。

・休日に、本を読んだり借ったりするために、月に1～3回図書館に行く割合は、約30%で国や県よりも上回っています。どの教科も、読書の時間が長いほど正答率が高い傾向にあります。

・授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる割合は、国を上回っています。

・学級やグループでの活動で、自分の考えを深めたり広げたりしている割合は、国を上回っています。自分で考え、自分から取り組んでいる生徒や、学級やグループで、自分の考えを深めたり広げたりしている生徒ほど正答率が高い傾向にあります。

<生活習慣>

・自分にはよいところがあると思う割合は、約35%で国と同等です。

・毎日、朝食を食べている割合は約80%で、国・県をやや上回っています。毎日同じくらいの時刻に寝ている割合は国や県と同等です。毎日朝食を食べている割合が高いほど、正答率が高い傾向にあります。

本調査からも、家庭や学校での学習習慣・生活習慣が学力にも大きく関わっていることは明らかであり、『習慣』は、意識して努力を続けることにより必ず改善できます。

家庭と学校が協力し、子どもが望ましい習慣を身に付け、将来の自立や個性豊かな自己実現に向かっていくことができるよう、今後ご理解とご協力をお願いいたします。